Pulse［パルス］

UD 少ない力・片手操作 体格・姿勢配慮

商品別カタログ パルスは、商品別カタログをご用意しております。

安定して座れるためのポイント アクティブ・バランス・シーティング（ABS）理論

カラダをコントロールすることができず、座り姿勢をくずしてしまう脳性マヒの人も、「だっこの手や腕」のようにカラダのポイントを支える（骨盤、胸郭、頭頸部を障害の程度に応じて単独または複合的に支える）ことで、長時間快適に座れるようになります。この理論をオフィスチェアに応用して、長時間のデスクワークが快適に行えるイスが創造できないかと考えました。

Release and Catch

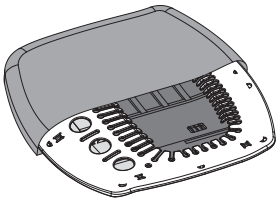
骨盤を立たせることで、姿勢の安定化を実現

Pulseでは、通常の座姿勢を安定して支えるためには、骨盤をしっかり支えることが大切だという理論のもとに背もたれとシートを開発しました。腰から背中にかけてのカーブを通常のオフィスチェアよりやや下方に設計するとともに、お尻が沈み込むように設計されたシート形状を採用。着座位置のズレを防ぎながら、胸郭下部をしっかり支えることで上体を安定させ、着座姿勢をラクにキープできるようになりました。

3つのカーブで カラダを安定して支える

■ 第三のカーブ　～The Third Curve～

Pulseでは、カラダを安定して支えるために、胸のうしろと骨盤のうしろの2つのカーブに加え、新しい3つめのカーブが大切だということに着目しました。胸郭の下にあたるその位置を支えることで姿勢を安定させ、リラックスして座ることができます。
メッシュバック・クロスバックタイプとも、背の形状が座る人に合わせて柔軟に変化し、体格の違いも補います。



シート後方の沈み込み量に変化をもたせ 着座位置のズレを抑える

■ 坐骨前方サポート　～Ischii Support～

Pulseのシートは坐骨部分に合わせてお尻が沈み込むように設計されました。座った時に、坐骨をやさしく包み込み、着座位置がずれにくくなります。

骨格に着目した動きのメカニズム

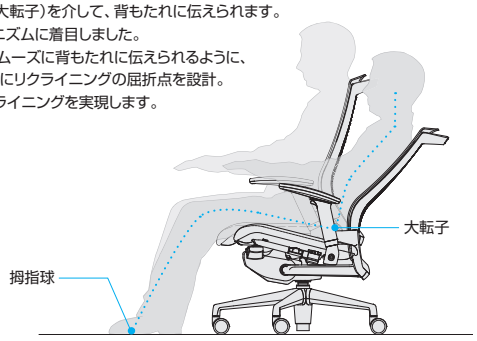
上体を動かすことで、手足の不自由な人でも車いすをこげるように研究された車いすのメカニズム。上体から加わった力を、骨格を通してスムーズに伝えることで、車いすが前へ進むように設計されていました。このメカニズムをオフィスチェアに応用することで、より快適にリクライニングできるチェアが創造できないかと考えました。

Reform and Support

ズレを抑えながら、快適なリクライニングを実現

Pulseでは、人はリクライニング時に足の裏で床を押し、その力が骨盤を介して背もたれに伝えられるという人本来の動作に着目したメカニズムをもとに、リクライニング機構を開発しました。足の裏の力をスムーズに背もたれに伝えられるように、大転子（股関節部）にリクライニングの屈折点を設計。お尻が沈み込むように設計されたシートと組み合せることで、リクライニングの繰り返しによる負荷を軽減しながら、ズレを防止し、常に快適かつ安定したリクライニングを実現します。

快適かつ安定したリクライニングを実現する

■ 拇指球チルト&大転子リクライニング

リクライニング時に、人は足の裏にある拇指球というポイントで床を押し、その力が骨盤の屈折部分（大転子）を介して、背もたれに伝えられます。
Pulseは、その動きのメカニズムに着目しました。
拇指球からの小さな力をスムーズに背もたれに伝えられるように、腰が屈折する部分（大転子）にリクライニングの屈折点を設計。
常に快適かつ安定したリクライニングを実現します。